



健康応援ひろば⑭



緊急時にすばやい対応を！

【どんな時に使うもの？】

AEDは「自動体外式除細動器」といい、人が心肺停止状態などで倒れている時の応急処置をするために使う道具です。裸の胸に貼った電極パッドから自動的に心臓の状態を判断します。心臓の状態が心室細動*を起こしていれば、強い電流を一瞬流して心臓に電気ショックを与え、心臓の状態を正常に戻します。心臓が正常の場合は、AEDは作動しません。

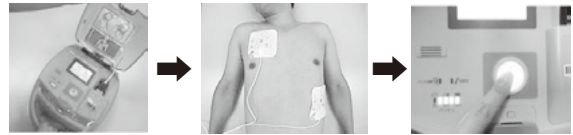
心室細動*を起こすと、1分経過するごとに約10%、蘇生する確率が減っていくといわれています。救急車が現場に到着するまでの時間はおよそ8分30秒かかるとされ、救急車を待っていたのでは蘇生する確率がとても低くなります。119番に連絡するまでに数分かかったとすると、さらに助かる可能性は低くなるのです。しかし、人が倒れた時すぐにAEDを操作すれば、命を救うことができるかもしれません。

*心臓が細かくブルブルふるえていて、血液を全身に送ることができない状態

【AEDの操作方法】

AEDは誰でも簡単に操作ができます。AEDの音声ガイドに従い1→2→3の順番に操作します。

1. フタを開けると自動電源ON
2. 電極パッドを胸に貼る
3. ボタンを押して電気ショック



皆さんの力で一人でも多くの大切な命を救いましょう。

救命講習(AED取扱い含む)の受講は、甲府地区消防本部および管内の各消防署へ受講申込が必要です。詳しくは甲府地区消防本部(☎(222)1193)または管轄の消防署にお問い合わせください。



▲甲府市 AEDマップ

☎市立甲府病院…☎(244)1111



とびだせ！市民レポーター！

甲府ってどんな町？～移住者から見た甲府～

普段私たちが生活する町、甲府での日々…。毎日発見がある？変わり映えしない？ずっといると見えてこないことも…？今回は甲府に移住し、作家活動をしながら農業を営む尾崎さんの生活、さらに彼から見た甲府の姿をお届けします。

甲府に来たきっかけ

ライフワークのひとつとして、本の執筆活動をしていた尾崎さん。「執筆をするにあたって熊本の水俣で取材をしていて…その中で半漁半農をしている漁師さんと出会って第一次産業に憧れを持ったんです」

そんな憧れが芽生えた中、もともと桃が大好きで「桃を作りたい！」と、ふと感じたそう。その直感が縁を呼び、東京で開催された「新農業人フェア」での出会いや、親戚がいることで、甲府市に移住を決め尾崎さんの甲府での生活が始まりました。

野菜との出会い

始めは桃一本でやっていくつもりだったという尾崎さん。しかし、農業の修行の中で野菜について学び、さらに中道地域で採れるとうもろこし「きみひめ」に出会い、「野菜も作ろう！」と決意を固めたそう。「きみひめを食べた時の東京の人からの反応がすごくビビッドで。とてもやりがいを感じましたね」

「おいしい桃・野菜を作るためには中道という土地はぴったりです」という尾崎さん。農業の専門用語や方言など、初めての職種、土地ならではのさまざまなことに戸惑いつつも、桃・野菜作りに奮闘する日々は続きます。

尾崎さんから見た甲府

そんな尾崎さんが思う甲府の魅力とは、「人と人の距離が近い」ということ。「こっちに来てから声をかけていただくことがとても多くて。ちょっと歩いていてもアイコンタクトがあったり。あとは…自分らしくいられるなって感じます」

もともと無尽や近所付き合いが活発な山梨。そんな中で育まれた人柄や、近所の人を大切にする姿勢。当たり前なことかもしれませんが、そんなささいなことが甲府の大きな魅力に繋がっているのかもしれない。▲尾崎太郎さん



◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆

甲府に移住をしてくる方たちはどんな思いで来ているのだろう…？生まれてからずっと甲府で育ってきた私にとって、気になっていたテーマのひとつでした。今回、尾崎さんにお話を伺うことができ、自分では見えていなかった甲府の良さを感じました。



今月の担当レポーター／深澤奈々